

TAMRON

# 株主通信

第74期 報告書

(2020年1月1日~2020年12月31日)



株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
 当社第74期(2020年1月1日~2020年12月31日)の営業概況について、ご報告申し上げます。

当期における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会情勢の混乱や経済活動の停滞により低調に推移し、当社の関連市場であるデジタルカメラ市場においても、世界各地での渡航や外出規制に加え、各種イベントの中止や延期等の影響を受け、レンズ交換式カメラ、交換レンズ、コンパクトデジタルカメラが大幅な落ち込みとなりました。

このような厳しい経営環境となったことから、当期の売上高は前期比23.6%の減収となり、販管費の削減に努めたものの、減収に伴う売上総利益の減少影響は大きく、前期比約半減となる営業減益を余儀なくされました。なお、中長期的な視点から事業基盤の再構築を図るべく国内生産拠点の希望退職募集を実施したことによる特別損失計上等もあり、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比63.3%の減益となりました。

配当金について

親会社株主に帰属する当期純利益が大幅な減益となりましたが、期末配当金につきましては、安定配当の観点も考慮し、中間配当金25円と合わせて当期の1株当たり年間配当金が50円、配当性向は56.3%となる、1株当たり25円とさせていただきます。

今後の展望

当社は、昨年、創業70周年を迎えることができました。お客様、株主の皆様を始めとするステークホルダーの方々のご支援の賜物と、改めて心より感謝申し上げます。現在、業界を取り巻く環境は、転換期を迎えています。加速する外部環境の変化に対応するために、創業70年の節目を機に、企業活動の根幹となる経営理念体系を改定いたしました。新たな経営理念のもと、次の10年、そして100年企業に向けて更なる飛躍を遂げるために、まずは2023年までの新中期経営計画である「Vision23」の実現を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

経営理念

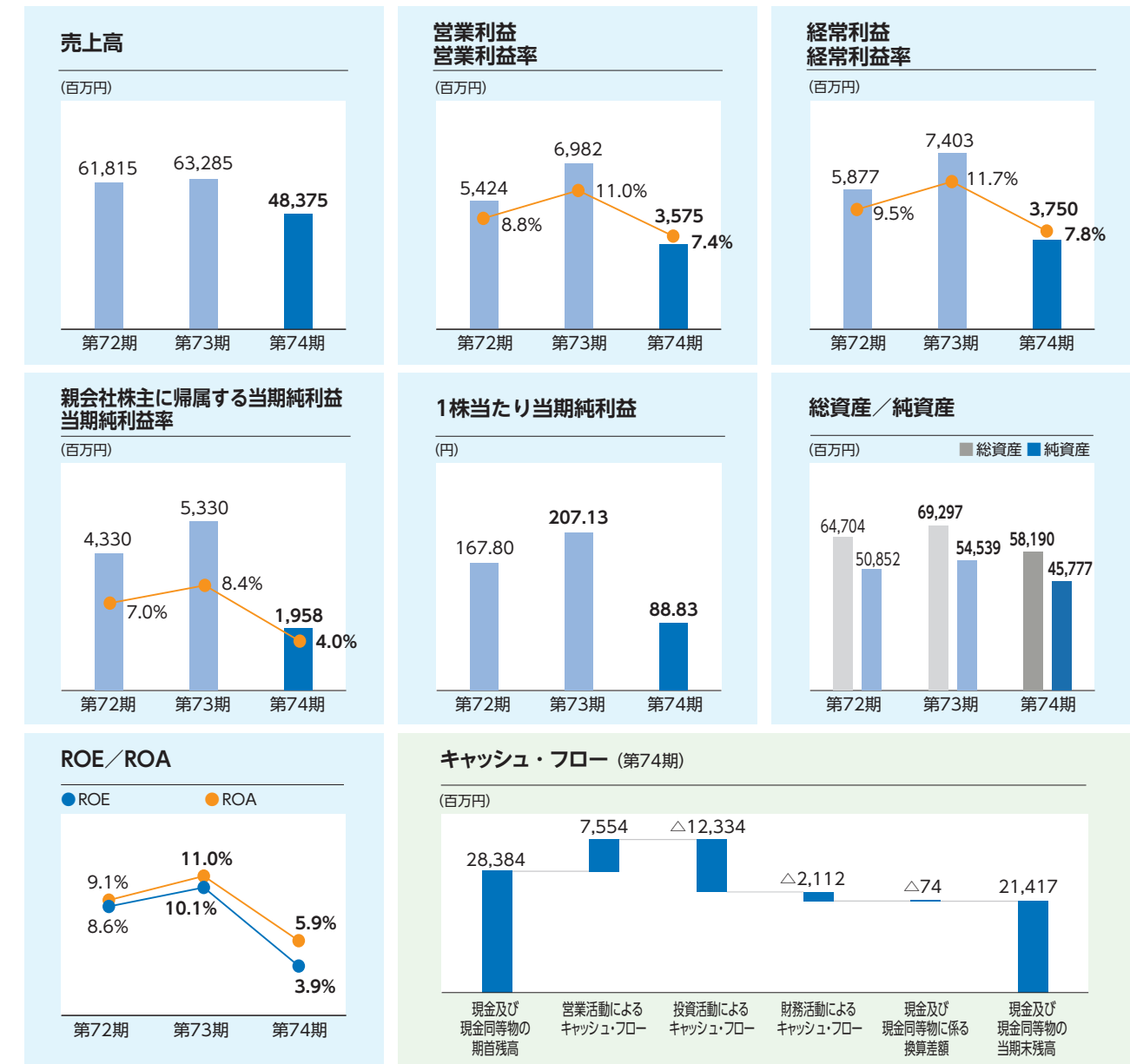
光を究め、感動と安心を創造し、心豊かな社会の実現に貢献します。



代表取締役社長 鯨坂 司郎

Contents

- 株主の皆様へ ..... 1
- 連結財務ハイライト ..... 2
- 特集 / 新中期経営計画  
『Vision23』始動 ..... 3-4
- セグメント別事業の概況 ..... 5-6
- 連結財務諸表 ..... 7
- トピックス ..... 8
- フォトコンテスト開催報告 ..... 9
- 会社情報 ..... 10



## 特集 新中期経営計画『Vision23』始動

当社は、2021年度を初年度とした3ヶ年の新中期経営計画『Vision23』を策定し、その達成に向け、全社を挙げて取り組みます。前中期経営計画の最終年度である2020年12月期は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により減収減益を余儀なくされたものの、2年目までの利益重視体質への変革が奏功し、一定の利益率水準は確保することができました。

創業70周年を迎えた当社は、次の10年、そして100年企業に向けてさらなる飛躍を遂げるために、当社グループのありたい姿として「長期ビジョン」を策定するとともに、経営理念体系を改定しました。そうした中で、新たな中期経営計画『Vision23』においては、基本方針として長期的な視点にたった飛躍に向けての投資・リソース配分の実行、持続成長可能な事業基盤の構築を着実に実行し、長期ビジョンの実現を目指します。

**長期ビジョン**  
 当社の目指す姿  
**社会に尊敬され、必要とされる会社**  
 ◆ Good Company  
 ◆ タムロンブランドの向上  
 ◆ 働きがいのある会社



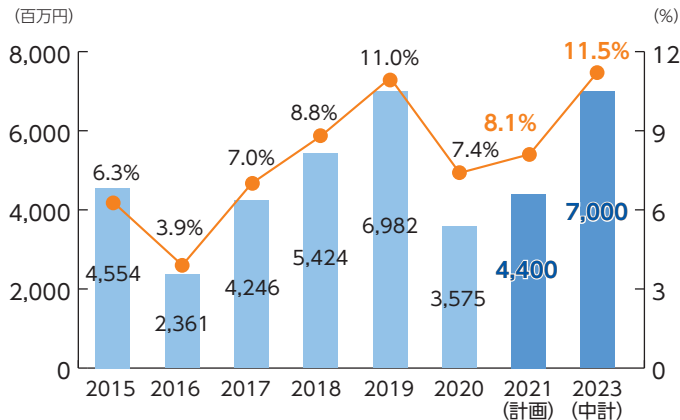
### 新中期経営計画『Vision23』の数値目標

〈連結〉	2020年実績	2023年中期計画
売上高	484億円	610億円
営業利益	36億円	70億円
営業利益率	7.4%	11.5%
ROE	3.9%	9%以上

※為替前提:ドル=105円、ユーロ=123円

投資計画	2021~2023年累計
設備投資	約 <b>100</b> 億円
研究開発費	約 <b>150</b> 億円
還元政策	2021~2023年
配当	配当性向 <b>35%</b> 程度にて、安定的な利益還元継続

### コロナ影響前の高収益水準にV字回復



## 新中期経営計画『Vision23』の基本戦略

### 事業戦略

事業ポートフォリオ最適化 ⇒ 開示セグメント変更

事業戦略のベースとして、長期的な視点で適切に投資やリソース配分を実行するためポートフォリオ最適化を図るべく、セグメントを一部変更します。

写真	監視&FA関連	モビリティ&ヘルスケア、その他
<b>◆中核事業として高収益維持</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミラーレスへの集中注力によるラインナップ倍増</li> <li>・新規フォーマットへの迅速対応</li> <li>・OEMでのインスタシア向上</li> </ul>	<b>◆第二の柱へと売上・利益成長</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巨大な中国市場の取り込み、SWIR含む新規技術やモジュールビジネスでの事業拡大</li> <li>・FAでのOEM創出、シェア向上</li> </ul>	<b>◆次世代の柱の立ち上げ</b> <b>◆新規事業領域の創出</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車載センシング強化、顧客開拓</li> <li>・医療事業の本格立上げ、ヘルスケア領域への展開推進</li> </ul>

### 機能戦略

既に着手した生産の構造改革において組織・運営面等の変革やスマートファクトリー化で競争力を強化し、グローバル販売網の活用もこれまで以上に進めます。研究開発では、自社技術の高度化はもちろんのこと、アライアンスを含めた外部との連携も進化させ、研究開発の成果を事業の早期創出、事業貢献へと結び付けていきます。

生産・調達	マーケティング・販売	研究開発
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産体制の構造改革に着手</li> <li>・スマートファクトリー化の推進</li> <li>・自動化率、内製率、現地調達率の向上</li> <li>・調達先の絞り込み</li> <li>・高精度加工、生産技術の蓄積</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル販売網を生かしたマーケティング機能の進化</li> <li>・各社の自律型運営への変革</li> <li>・グローバルでのニーズの掘り起こしと共有・連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎の光学・要素技術の高度化</li> <li>・製品開発/設計の生産性と品質の向上</li> <li>・シーズの発掘/育成の強化</li> <li>・オープンイノベーション活用</li> </ul>

### 経営リソースの高度化・企業価値創出の基盤整備

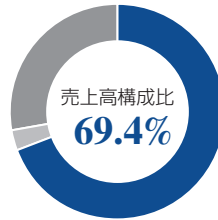
財務体質・戦略投資    IT刷新・DX推進    人材育成・制度/環境整備    ESG

持続可能な事業基盤構築

セグメント別事業の概況

写真関連事業

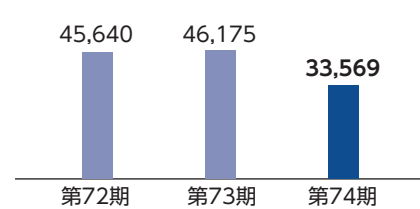
売上高は前期比27%減の126億5百万円の減収となりました。その内訳について、OEMは市場の落ち込み並みの34%の減収となりましたが、自社ブランドは新製品投入による下支えもあり、市場の落ち込みよりは抑制ができた結果、23%の減収に留まりました。



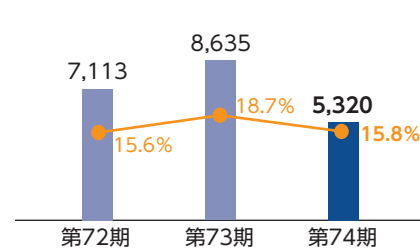
自社ブランドでは、現地通貨ベースで、コロナ禍からの立ち上がりがあった中国では前期並みの売上高を維持したものの、主要市場では、日本・米国が約20%、欧州は約25%の減収となりました。

営業利益は、大幅減収の影響を受け、39%の減益となりました。減益幅は大きくなりましたが、計画に対して利益は改善し、大幅減収のなかで利益率15%台を確保することができました。

売上高(百万円)



営業利益(百万円) / 営業利益率

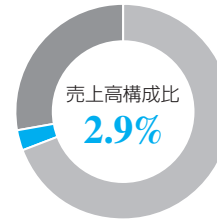


レンズ関連事業

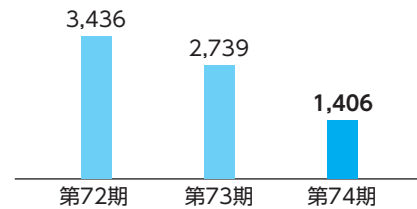
レンズ関連事業は、売上高が前期比49%もの大幅減収となったことで、82百万円の営業赤字となりました。

コンパクトデジタルカメラ用レンズとビデオカメラ用レンズが、市場全体の落ち込みと同程度となる約半減の減収となりました。

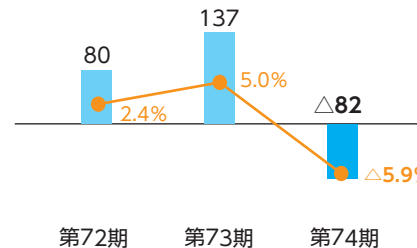
また、ドローン用レンズも2020年は新規量産機種がなく、既存の受注モデルの販売が伸び悩んだことにより、同じく約半減の減収となりました。



売上高(百万円)

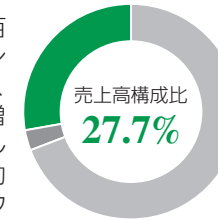


営業利益(百万円) / 営業利益率

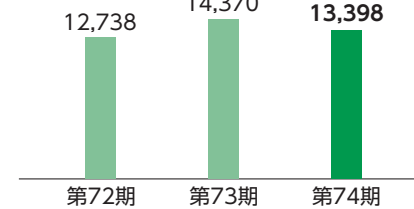


特機関連事業

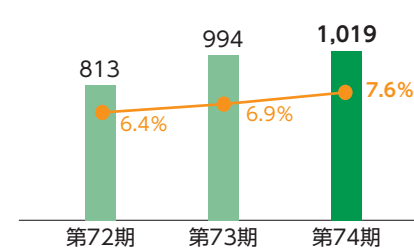
売上高は前期比7%減の9億72百万円の減収となりました。車載用レンズはセンシング向けの販売増により、前期同様に2ケタ増収となる約15%増収の40億円へと売上高を伸ばしました。一方で、監視/FA用は、前期比約14%減収となりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響でカメラメーカー側の稼働・開発が停滞し後ろ倒しとなったことや、経済環境悪化による投資抑制、またテレビ会議用レンズ需要低迷等の影響を受けました。監視/FA用の減収により特機関連事業全体では売上高は減収となりましたが、原価低減、販管費の抑制、車載用レンズの増収効果等により営業利益は増益を確保することができました。なお、監視/FA用の中国市場向けの売上高は上期の約40%減から、下期では約40%増へと転換しており、2021年以降の中国市場向けでの成長が見込まれます。



売上高(百万円)



営業利益(百万円) / 営業利益率



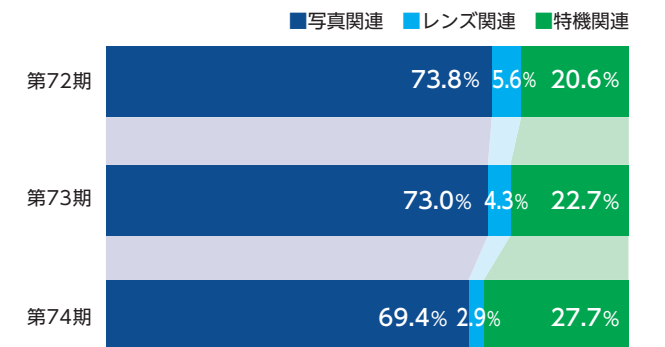
セグメント別業績の推移

(百万円)

	第72期	第73期	第74期	
写真関連	売上高	45,640	46,175	33,569
	セグメント利益	7,113	8,635	5,320
レンズ関連	売上高	3,436	2,739	1,406
	セグメント利益または損失(△)	80	137	△82
特機関連	売上高	12,738	14,370	13,398
	セグメント利益	813	994	1,019
セグメント利益の調整額	△ 2,583	△ 2,784	△ 2,681	
連結営業利益	5,424	6,982	3,575	

※セグメント利益の調整額は、当社の総務、経理等の本社部門に係わる配賦不能営業費用等です。

連結売上高構成比率の推移



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (2020年12月31日現在)	前期 (2019年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	41,470	51,662
固定資産	16,719	17,634
資産合計	58,190	69,297
負債の部		
流動負債	10,198	12,299
固定負債	2,214	2,458
負債合計	12,412	14,758
純資産の部		
株主資本	43,675	52,208
その他の包括利益累計額	2,102	2,330
純資産合計	45,777	54,539
負債純資産合計	58,190	69,297

Point

流動資産

現金及び預金が69億67百万円減少、受取手形及び売掛金が25億88百万円減少したこと等により101億92百万円減少し、41.4億70百万円となりました。

流動負債

未払法人税等が7億81百万円減少し、買掛金が7億65百万円減少したこと等により21億1百万円減少し、101億98百万円となりました。

純資産

自己株式が88億51百万円増加したこと等により87億61百万円減少し、45.7億77百万円となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (2020年1月1日から 2020年12月31日まで)	前期 (2019年1月1日から 2019年12月31日まで)
売上高	48,375	63,285
売上原価	30,004	39,056
売上総利益	18,370	24,229
販売費及び一般管理費	14,794	17,246
営業利益	3,575	6,982
営業外収益	836	621
営業外費用	662	201
経常利益	3,750	7,403
特別損失	864	-
税金等調整前当期純利益	2,885	7,403
法人税等	927	2,072
親会社株主に帰属する当期純利益	1,958	5,330

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (2020年1月1日から 2020年12月31日まで)	前期 (2019年1月1日から 2019年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,554	10,925
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 12,334	△ 2,863
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,112	△ 1,923
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 74	△ 193
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 6,967	5,946
現金及び現金同等物の期首残高	28,384	22,438
現金及び現金同等物の期末残高	21,417	28,384

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益が28億85百万円、減価償却費が28億3百万円、売上債権の減少額が23億66百万円となったこと等により、75億54百万円の取入となりました。

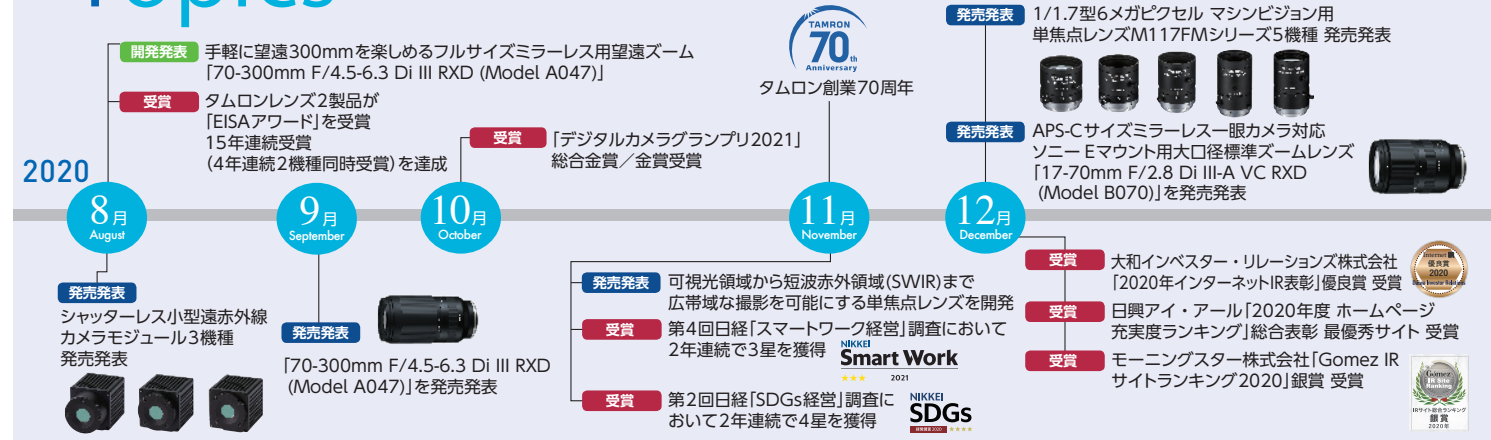
投資活動によるキャッシュ・フロー

連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が93億83百万円、有形固定資産の取得による支出が29億28百万円となったこと等により、123億34百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額が16億39百万円、短期借入金純増減額が5億11百万円であったこと等により、21億12百万円の支出となりました。

Topics トピックス



新製品

APS-Cサイズミラーレス一眼カメラ対応ソニー Eマウント用 大口径標準ズームレンズ17-70mm F/2.8 Di III-A VC RXD (Model B070) 発売発表

当社として初のAPS-Cサイズミラーレス一眼用大口径F2.8標準ズームレンズで、普段使いに最適な17-70mm (35mm換算: 25.5-105mm相当)、ズーム比4.1倍を実現しました。さらに、非常に高い描写性能を発揮しています。また、手ブレ補正機構[Vibration Compensation]を搭載しながらも小型軽量ボディを叶えた1本です。

屋外での撮影を考慮した簡易防滴構造や防汚コートを採用しており、フィルター径は弊社フルサイズミラーレス用レンズシリーズと共通のφ67mmです。ソニー製カメラに搭載されている「ファストハイブリッドAF」「瞳AF」など各種カメラ機能にも対応しており、快適な撮影をサポートする機能も充実しています。大口径F2.8の高画質を、手軽にお楽しみいただくことができる実用性の高いレンズです。



※1 Di III-A: APS-Cサイズ相当ミラーレス一眼カメラ専用レンズ。

開発情報

可視光領域から短波赤外領域(SWIR)まで広帯域な撮影を可能にする単焦点レンズを開発 ~食品・農業・医療・サイエンスなどの各種産業用途に最適~

光学レンズは「波長ごとに屈折率が異なる」という物理的特性により撮影波長域ごとにピントずれが生じています。そのため、通常の産業用レンズを使用しても、可視光領域から短波赤外領域にわたる撮影を行う場合は、撮影する波長帯にあわせてピント調整を行う必要があります。

また通常の産業用レンズは可視光域で最適な分光透過特性が得られる様に光学設計を行っていることから、短波赤外領域で撮影を行う場合、分光透過特性が不足し、画質低下を招いていました。そのため、短波赤外領域での撮影には専用設計された産業用レンズを別に用意する必要があります。

これらの課題を解決するため、当社は可視域から短波赤外領域までの撮影を可能とする光学技術とコーティング技術を開発しました。これらの技術を用いることにより、新たに開発した製品では、異なる波長帯に対してもピントずれを極限まで抑えることが可能となり、波長帯ごとのピント調整を行うことなく解像度感を落とさない撮影が可能となります。また、分光透過特性においても、可視光領域から短波赤外領域の広帯域に渡ってフラットで高い透過率を実現しています。これらの対応により、食品の検査や選別の他、農業、医療、サイエンスなどの各種産業分野において、可視光領域から短波赤外領域まで1本のレンズで撮影することが可能となります。

受賞

タムロンレンズ2製品が「EISAアワード」を受賞 15年連続受賞、4年連続2機種同時受賞の快挙を達成

<p>「EISA TELEPHOTO ZOOM LENS 2020-2021」</p> <p>70-180mm F/2.8 Di III VXD (Model A056)</p>	<p>「EISA TRAVEL ZOOM LENS 2020-2021」</p> <p>28-200mm F/2.8-5.6 Di III RXD (Model A071)</p>	<p>総合金賞&lt;交換レンズ/ミラーレス&gt;</p> <p>28-200mm F/2.8-5.6 Di III RXD (Model A071)</p>	<p>金賞 ミラーレス用交換レンズ&lt;サードパーティー/フルサイズ&gt;</p> <p>70-180mm F/2.8 Di III VXD (Model A056)</p>
---	--	--	---

# フォトコンテスト開催報告



## 第13回 タムロン鉄道風景コンテスト

「鉄道のまち大宮」に本社を置く当社は、さいたま市、さいたま市教育委員会、さいたま商工会議所のご後援をいただきながら、地域の活性化と鉄道文化の振興に貢献することを目的とした「タムロン鉄道風景コンテスト」を2008年より毎年開催しています。



一般の部大賞 受賞作品  
「特等席」 高柳 光希様

小・中・高校生の部大賞 受賞作品  
「雪煙」 岡田 勲介様

今回は、応募作品数8,428点、応募のべ人数2,151件となり、応募点数、のべ人数ともに過去最高となるご応募をいただきました。

審査員である鉄道写真家 広田尚敬氏とフォトライター「鉄子」として人気の矢野直美氏による厳正な審査が行われ、全87名の方が入賞されました。



鉄道写真の魅力と楽しさを更に広く知っていただくために、2019年よりInstagram限定のハッシュタグフォトコンテスト「タムロン鉄道風景 Instagramコンテスト」を開催しています。

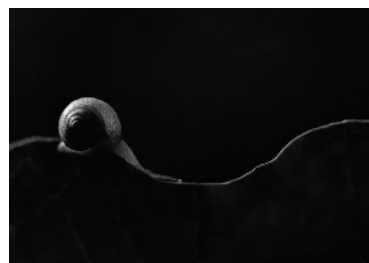
第2回タムロン鉄道風景Instagramコンテスト2020  
大賞 受賞作品  
PHOTO: @nishikaze3578

## 第17回 タムロン・マクロレンズフォトコンテスト

タムロン・マクロレンズフォトコンテストは、マクロレンズの普及を目的に2004年から毎年開催しています。

本コンテストの特徴は、当社のマクロレンズはもちろんのこと、マクロレンズであればメーカー問わず、旧モデルも含めて広く作品を募集していることです。分野はネイチャー部門とノンジャンル部門を設定しています。

第17回はプリント作品およびネットによるご応募の合計で、応募人数1,937名、応募総作品数5,693点と、たくさんのご応募をいただきました。審査については、ネイチャーの部は並木隆氏、ノンジャンルの部は大村祐里子氏に行っていただき、厳選なる審査の結果、新たに「ハーフマクロ賞」を設けて全31名の方が入賞されました。



グランプリ 受賞作品  
「稜線を行く」 森本 修様

### 会社概要

商号	株式会社タムロン
創業	1950年11月1日
設立	1952年10月27日
本社	埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
資本金	69億23百万円

### 役員

2021年3月26日現在

代表取締役社長	鯉坂 司郎
取締役副社長	桜庭 省吾
取締役副社長	阿保 正行
専務取締役	増成 弘治
専務取締役	北爪 泰樹
常務取締役	大塚 博司
常務取締役	張 勝海
取締役	大谷 真人
取締役	岡安 朋英
取締役	佐藤 勇一*
取締役	片桐 春美*
取締役	石井 絵梨子*
常勤監査役	手塚 努
常勤監査役	平山 隆志*
監査役	利根 忠博*
監査役	奈良 正哉*

注1. ※印の取締役は社外取締役、監査役は社外監査役であります。  
注2. 当社は、取締役 佐藤 勇一、取締役 片桐 春美、取締役 石井 絵梨子、監査役 平山 隆志及び監査役 奈良 正哉を東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届け出ています。

### 株式の状況

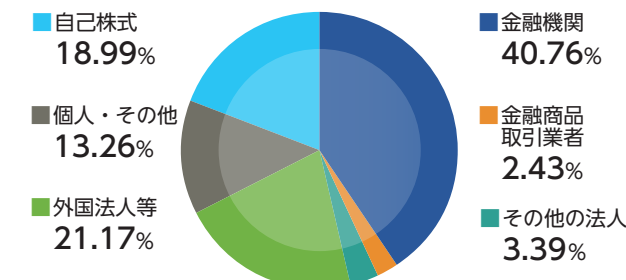
発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	25,950,000株
単元株式数	100株
株主数	4,821名 ※単元未満除く

### ■大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率
ソニー株式会社	3,129	14.88%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,806	8.59%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,606	7.64%
株式会社埼玉りそな銀行	1,002	4.77%
日本生命保険相互会社	580	2.75%
J P モルガン証券株式会社	403	1.92%
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044	373	1.77%
タムロン協力会社持株会	290	1.38%
株式会社アルゴグラフィックス	267	1.27%
JPMBL RE UBS AG LONDON BRANCH COLL EQUITY	265	1.26%

(注) 1. 持株比率は、発行済株式総数から自己株式(4,927千株)を控除して算出しております。  
2. ソニー株式会社の持株数3,129千株は、みずほ信託銀行株式会社へ委託した信託財産であります。信託約款上、議決権の行使並びに処分権については、ソニー株式会社が指図権を留保しております。

### ■株式所有者別分布



## 株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月

基準日 定時株主総会 毎年 12月31日  
期末配当 毎年 12月31日  
中間配当 毎年 6月30日

単元株式数 100株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
(電話照会先) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

※ 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

公告方法 電子公告 ※ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

当社ホームページ <https://www.tamron.co.jp/>

### お知らせ


#### ● 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。


#### ● 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ソーシャルメディア 公式アカウント

 <https://twitter.com/TamronJP>  
タムロン製品・サービスに関する最新情報やイベント情報、企業情報など幅広い情報をいち早くお届けします。

 <https://www.instagram.com/tamronjp/>  
タムロンレンズで撮影された写真をアップしていきま  
す。ユーザー参加型のイベントの他、#tamronを付け  
て投稿頂いた写真には積極的にいいねさせて頂きます。

 <https://www.facebook.com/tamron.highpowerzoom>  
写真レンズに関する製品情報の他、最新のHPコンテン  
ツ紹介、フォトコンテストや各種イベント・キャンペーン  
情報を発信しています。

 <https://www.youtube.com/user/tamronjp>  
CSR活動や、タムロンのものづくり、写真家による製品  
レビューなど、タムロンの取り組みを動画で発信して  
います。

## ホームページのご紹介

当社ホームページでは、事業内容ははじめ、商品のご紹介からIR情報に至るまでの様々な情報を掲載しています。  
ぜひご活用ください。

### 主な掲載コンテンツ

- 企業情報
- 製品一覧
- IR情報
- CSR情報
- 採用情報
- サポート・ダウンロード

### コーポレートサイト

URL <https://www.tamron.co.jp/>



### フォトサイト (写真レンズ用フォトサイト)

URL <https://www.tamron.jp/>



※表紙の写真は、第13回 タムロン鉄道風景コンテストの入賞作品です。

## 株式会社タムロン

〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地  
TEL 048-684-9111(代) FAX 048-683-8289 <https://www.tamron.co.jp/>

■ IR情報関連に関するお問い合わせ：経営企画室

TEL 048-684-9114(午前9:00~午後5:20) FAX 048-683-8282

e-mail : [kabushiki@tamron.co.jp](mailto:kabushiki@tamron.co.jp)

**UD FONT**  
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

**VEGETABLE  
OIL INK**

本冊子は環境保全のため、  
植物油・インキで印刷しています。